2022.04

2021 年度国連ユースボランティア派遣者 体験談

氏名： 岡 望美 （ OKA Nozomi ）
学部・学科 ：異文化コミュニケーション学部
異文化コミュニケーション学科
派遣年度・年次 ： 2021 年度派遣（派遣時 4 年次）
派遣地域 ： ラオス人民民主共和国（ビエンチャン）
派遣先機関 ： UN Volunteers （国連ボランティア計画）
オンライン活動期間： 10 月／現地活動期間： 11 月～ 2 月

◇参加のきっかけ、目標を教えてください

入学時から「国連ユースボランティア（以下 UNYV）」には興味があり、3年次（2020 年度）に申込を検討していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりプログラムの参加が叶いませんでした。4年次での参加は、就職活動との両立や卒業時期の変更など様々な要因から出願をするか悩みました。しかし、自分が国際協力・開発分野に興味をもったきっかけとなったラオスでのポストが発表されたことをきっかけに出願を決意しました。また国連が開発や SDGs をはじめとした課題にどのように関わっているのかを学び、自分が将来どのような視点や立場から携わることができるかを明らかにしたいと思い、UNYV に参加しようと思いました。

ラオスという繋がりのある国で、今まで経験してきた学生団体や NGO とは異なる立場から国際協力・開発の現場を見てみたいと思ったこと、そして UNYV として働く中で国連という組織を内側の視点から学びたいという目標を持ち、UNYV に参加しました。

◇派遣された機関について、また今回携わった業務について教えてください

私は、UN Volunteers Lao PDR（以下 UNV ラオス）に、Support Officer として派遣されました。UN Volunteers（国連ボランティア計画）は、ボランティアリズムを通じて世界の平和と開発に貢献する国連機関です。そして UNV ラオスは、Country Office（国事務所）で、ラオスをフィールドに活動している機関になります。

私はそこで、ラオスにおける「ボランティアリズムの推進」と「ボランティアの動員」という大きく分けて二つの業務に従事していました。「ボランティアリズムの推進」に関わる業務では、国連ボランティアデーのイベント運営や国連ボランティアの体験談執筆、SNS 広報などに携わりました。「ボランティアの動員」に関わる業務では、UN Lao PDR に所属する全ての国連ボランティアたちのマネジメントや、新しい国連ボランティアのリクルートメント業務などに携わりました。

◇印象に残っている活動を教えてください

国際ボランティアデーのイベント運営サポートと、新しい UN Volunteer の受入れのためのリクルートメント業務のサポートが印象に残っています。

国際ボランティアデーのイベントは、UNV にとって一年で一番大きな仕事で、UNV が主体になって実施しています。UNV ラオスでは、12 月 4 日にイベントを実施しました。私はパートナーとの調整や広報業務などの面から準備に取り組みました。5 ヶ月間で一番忙しく大変でしたが、当日イベントの様子を見て達成感とやりがいを実感することができます。

またリクルートメント業務では、面接前後の準備だけでなく、実際に面接官としてインタビューに参加する機会もあったことから印象に残っています。インタビュー後のミーティングで、各国連機関や各 DOA（Description of Assignment）によってどのような人材が求められているか、どのようなスキルを重要視しているかといった点を学ぶことができました。ついこの間までは面接を受ける立場にいた自分が、最終的に面接官の立場にいた時は不思議な感覚になったと同時に、とてもやりがいを感じました。

◇活動を通して、特に国際協力に関して、どんな学び・知見を得ましたか

UNYV の活動を通じ、国連という組織で働くとはどういうことかを学ぶことができました。国際協力分野の最前線ではあるものの、草の根活動等を行う現場とは少し距離感のある独特な立場です。国連で働く多くのスタッフが、専門性と現場経験を兼ね備えているからこそ、現場との距離が多少あったとしてもプロジェクトを進めることができるということを学びました。

もう一つ学んだことは、国際協力のあり方やアプローチの仕方は多種多様だということです。日本にいると、国際協力の分野の仕事は、国連をはじめとする国際機関やコンサルタント、NGO などに注目してしまいますが、途上国で生活する中、多くの国内外の民間企業が SDGs に関連した事業の展開や雇用・ビジネスを通じた開発などを行っているところを目にし、広義での国際協力・開発を理解することができました。また個人で活動する多くの日本人の方々からお話を伺う中でも、活動の幅の広さを実感しました。どの立場も、それぞれ得意な分野や仕事があり、この先自分がどこういった視点から携わっていきたいかをじっくりと考える機会になりました。

◇自身の考え方やスキルに関して成長や変化があれば教えてください

私は今回の参加を通じて、セルフマネジメント力が成長したと感じています。よくある海外大学等への留学とは異なり、フルタイムで勤務しながら、途上国での生活に適応する必要があり、様々な面でマネジメント能力が求められます。仕事面では、様々な業務を並行して取り組まなければならないことや、私たち学生はメールや郵送物の送り方やパートナーへの挨拶などといった社会人としての基本も学ばなければなりません。上司は常に忙しくしていたので、メールや記事の書き方は、他のスタッフのいい書き方を見て取り入れたりするなど、自分なりに学び試してみたりしていました。学生という枠を超え、初めて一社会人として働く経験をしながら途上国での生活に適応するのはとても大変でしたが、この UNYV を通じ、仕事や自分のキャパシティの把握、途上国生活の適応など多面的なセルフマネジメント力を学ぶことができたと思います。

◇国連ユースボランティアでの経験を今後どのように活かしていきたいと思いますか

私は今回の派遣期間中、多くの国連スタッフや現地で活動する日本人の方々にお話を伺う中で、国連でのキャリア形成にも本当に多様なルートがあること、そして国連以外の立場や組織で国際協力・開発分野で活動する方法を知ることができました。卒業後、私は民間企業に入社する予定です。国連という組織だけが世界の課題に取り組むのではなく、持続可能な社会を目指すには多種多様な視点から包括的に取り組まなければいけないと考えているので、今回の経験を活かし、今後は自分の所属する企業を通じて SDGs や開発分野に貢献したいと思っています。また、実際にフルタイムで働くという経験から、仕事をする上でのマナーや基礎知識を学ぶこともできました。これらは、この先社会に出て、どのような仕事をする上でも活かすことができると思います。

◇参加を考えている学生へのメッセージ

UNYV は、国連で働きたい人や明確なキャリア目標が定まっていない人でも、チャレンジし多くの学びや発見を得られる貴重な機会です。現地での生活や慣れない仕事など、大変なことも多くありますが、それ以上に多くの学びや気づき、出会いがあります。開発途上国で、国際協力の現場で、多様性あふれるオフィスで、さまざまな人たちと関わる中でぜひ視野を広げてきてください。

また英語力の面で不安を抱えている人もいると思いますが、基本的なコミュニケーションができれば問題ありません。あとは自身の学ぶ姿勢やコミュニケーションを取ろうとする姿勢があれば、英語力は自ずと着いてきます。参加前までに取り組めることを挙げるとすれば、会話や学習等、「英語で」何かをすることに慣れておくことだと思います。

より多くの学生が UNYV に挑戦し、現地で活躍する姿を見ることができるのを楽しみにしています。

以上